第27回 日本臨床微生物学会総会・学術集会

ランチョンセミナー 12

1960年代からの微生物検査を顧みて

日 時 2016年1月30日(土) 12:10～13:10

会 場 仙台国際センター・展示棟　1F 会議室4　第9会場
〒980-0856 宮城県仙台市 青葉区青葉山無番地

座 長 戸塚 恭一 先生
東京女子医科大学名誉教授／北多摩病院副院長

演 者 小栗 豊子 先生
東京医療保健大学大学院　医療保健学研究科　教授

本会のランチョンセミナーは、
整理券制です。

配布場所：ランチョンセミナー整理券配布所
（仙台国際センター展示棟）
配 布 日：2016年1月30日(土)
配布時間：8：00～11：30
※整理券はセミナー開始5分後に無効となります。

80Th 1935-2015
おかげさまで80年
日水製薬株式会社は
2015年4月6日に、創業80周年を迎えました。
これからもみなさまとともに
成長していけるよう尽力してまいります。

共催：第27回日本臨床微生物学会総会・学術集会／日水製薬株式会社

第27回 日本臨床微生物学会総会・学術集会

ランチョンセミナー 12

1960年代からの微生物検査を顧みて

座長 戸塚 恭一 先生　東京女子医科大学名誉教授／北多摩病院副院長
演者 小栗 豊子 先生　東京医療保健大学大学院　医療保健学研究科　教授

私が臨床検査技師（当時は衛生検査技師）として順天堂大学医学部附属順天堂医院に入職したのは1963年4月である。その1年前に国立東京第一病院（現在の国立国際医療センター）での病院実習で、検査科技師長、故廣明竹雄先生のご指導をいただく機会が与えられた。先生は秘伝とされていた細菌の鞭毛染色法（廣明法）を考案されており、超人的な技能の持ち主で、恩師 故小酒井望先生の実験助手をも務められた先生である。「廣明流」はまさに“目から鱗”であった。

順天堂医院の細菌検査は1961年故小酒井望先生が臨床病理学教室の教授に就任され、アメリカの医療施設視察で得られた経験をもとに細菌検査室の業務が構築されていた。検査材料別検査法が導入され、当時はほとんど行われていなかった*Haemophilus*の検査や無芽胞嫌気性菌の検査も行われていた。私は非常に恵まれた環境で細菌検査ができたが、1歩外に出ると、微生物検査の施設間差は激しく、あまりにも著しいものであった。

臨床微生物検査の問題解決のため、臨床医と検査技師で構成された研究会が立ち上げられ、喀痰研究会、嫌気性菌研究会、緑膿菌研究会では多くの思い出がある。喀痰研究会では下気道感染症の起炎菌の決定をいかに行うか、*Haemophilus* spp.の分離率の施設間差が大きいことに目が向けられた。嫌気性菌研究会では広範囲の嫌気性菌を発育させる非選択および選択培地の開発、安全で性能の良い嫌気培養法が開発され、これらは現在でも用いられている。なお、嫌気性菌の同定・薬剤感受性検査についてはなお改良すべき課題が多い。緑膿菌研究会では故本間遜先生が確立された緑膿菌の血清型別に始まり、1970年代に入り、グラム陰性桿菌の日和見感染症が急増した頃には、故薮内英子先生を中心にブドウ糖非発酵グラム陰性桿菌の同定法が確立された。

長年、微生物検査とともに歩んできた中で感銘を受けたことは、昔は“夢”であったことがことごとく実現したことである。また、臨床微生物検査技師の業務の場が従来の検査業務に感染制御の分野が新しく加わったことで臨床の場にも進出した。多くの問題が解決されてきたのであるが、新たな問題として、耐性菌の増加、新興・再興感染症の台頭、輸入感染症の増加などの難問が噴出している。難問は解決され、また新しい難問と絶えることなく続くであろう。これらはまさに人類を成長させる試練なのである。

展示のご案内

本学会付設展示会にて弊社製品を展示しております。ぜひ弊社ブースにお立ち寄り下さい。

展示機器・製品
- 全自動迅速同定・感受性測定装置 ライサスエニー
- β-Dグルカン測定試薬・機器
- 自動遺伝子検査装置　TRC Ready-80